

大きな一歩

神奈川県 渋沢中学校 3年 渡辺 桃佳

「ちょっと、そこの子たち。」

そう話しかけてきたのは、とあるおばあさんでした。そのとき私たちは、ちょうど部活から帰っているところでした。そのおばあさんは、呼吸が荒く、かなり疲れているよう。どうやら散歩をしていたら、一度も訪れたことのない遠くまで来てしまい、道に迷ってしまったそうです。

私たちは、どこに住んでいるのか、どの道を通ってここに来たのかなど、いろいろ聞いてみました。しかし、住んでいる場所はなんとなくわかったものの、歩いてきた道はすっかり忘れてしまったようでした。このままでは日が暮れてしまうと思い、私たちはおばあさんといっしょに交番へ向かうことにしました。

歩いていると、おばあさんは不安そうな顔で、

「ここで合ってるの？ 初めて来たわ。」

と辺りを見渡しながらか、あまり落ちつかない様子でした。それもそのはず、見ず知らずの道を歩いているのだから。いっしょに歩いているだけでも、おばあさんの不安な気持ちがよく伝わってきました。

私はなんとかして、おばあさんを安心させてあげたいと思い、

「大丈夫ですよ。安心してください。」

と話をしました。すると、おばあさんは安心できたようで、

「それならよかったわ。」

と、笑顔を見せながら話してくれました。おばあさんの笑顔を見たとき、どれだけ不安な時間を過ごしてきたのか、よくわかりました。

ようやく交番に着くと、警察の人が奥の部屋から出てきました。事情を説明すると、警察の人はすぐおばあさんに名前や住所、電話番号などを聞き始めました。しかし、電話番号は忘れてしまったようです。警察の人は少し困った顔をしながら、地図を持ってきて住んでいる場所を詳しく調べ始めました。すると、どこに住んでいるかわかりました。私たちもとても安心して、ほっとしました。

家の場所がわかったところで、警察の人が車で、おばあさんを家へ送ることになりました。

すべての要件が済み、外へ出るときに、警察の人がこんなことを言ってくれました。

「ありがとうございます。本当に助かったよ。今度何かあったら、また来てね。」

この言葉を聞いて、人への親切の大切さを改めて感じました。そしておばあさんも、

「迷惑をかけてごめんね。本当に助かったよ。ありがとうございます。気をつけて帰ってね。」

と言ってくれました。

私は日頃、人の役に立つような親切ができていないので、今回のできごとは、私にとって大きな一歩でした。あの時もしも、おばあさんが私たちに声をかけてくださらなかつたら、私は何も成長しないままの人間でいたかもしれませぬ。このような親切をする機会を私に与えてくださったおばあさんには、本当に心から感謝の気持ちでいっぱいです。これを機に、親切の大切さを忘れず、人の役に立てるすてきな人間になりたいです。